

第2回 CS 記録

日 時：令和7年 10月2日（木）18:00～19:30

場 所：北海道長万部高等学校 芸術教室他

参加者：17名

運営委員：10名

小野 雄二 様、亀田 純孝 様、岸上 尚生 様、北山 元 様、斉藤 和博 様、
高野 暢子 様、竹内 謙 様、辰巳 治典 様、中野 美貴 様、吉村 勝 様
オブザーバー2名

近藤 英隆 様、寒河江 孝之 様

長万部高等学校5名

土屋 靖雅 校長、樋口 智一 教頭、沢瀬 久美子 教務部長、

松谷 良子 教務部副部長、山岸 みのり 教諭（地域連携担当教諭）

1 開会の言葉

赤塚会長 不在

2 校長挨拶

紹介：渡島教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事 吉田 修介 様

3 学校概要について

・資料説明

「地域で子どもを育てる」「地域から選ばれる学校であれ」

地元からの進学率が低いのが本校の課題。

3本柱「持続可能な地域連携」「地元食材を活用した商品開発」「学びの継続と自己実現に向けたキャリア教育の充実」を中心に、同窓会、PTA、町教委、小中高で連携している。

地域懇談会

・次年度の配置計画について

再編留保校になって4年。

・3学年の進路状況について

進学希望者8名

4 協議事項について

・3本柱を軸にして、活発な意見をお願いしたい。

5 全体協議

・戦争を経験された方というのは誰が来たのか？

→今年度はまだ実施していない。教員も勉強になる良い機会。

・新聞やテレビでの報道があった。戦争の話を直接聞くというのは良い取り組みである。今年
はいつやるのか？

→国語科の教員が今年度異動してきたため、現在調整中。

- ・戦後 80 年。平和記念館等を含めた町内の施設巡り、視察等はやっているのか？
→視察等を行っていないが、今後検討する。

6 諸連絡

分科会について 3つで開催

7 閉会の言葉

8 各部会協議 18:45~19:30

◎探究部会

- ・生徒募集として、黒松内方面へのスクールバスを出して、それを売りにしてはどうか。
- ・以前は学校祭で花火や駅前パフォーマンスなど実施していたが、現在は小さくても、できる行事等で楽しいものを増やし、生徒募集に繋がるようなものを盛り込んでいけたら、もっと増えるのではないか。
- ・段階を踏んで、探究活動を進めていくと良いのではないか。
- ・探究活動に必要な経費については、長万部町役場において、支援していただいてはどうか。
- ・元あまね茶房跡地で東京理科大学の学生と共に、交流を兼ねて、カフェなどを実施してみようか。東京理科大学との関わりを増やし、発展させてはどうか。
- ・地域の方と教員だけでなく、地域の方と生徒が直接、話し合いをして探究活動に結び付けていった方がスムーズに進むのではないか。そのために、地域の方々との繋がりを、教員がリードして、生徒の活動に結び付けられるように働きかけてみてはどうか。
地域の方に上手に関わっていただいて、探究活動を活性化してみようか。
- ・大きなテーマや課題に取り組むのではなく、小さくてもいいので、継続できる活動に取り組んでいけると良いのではないか。
- ・探究活動のスタートはコミュニティが目的であることを前提において、課題設定をしていてはどうか。今までと逆の発想で取り組んでいただきたい。

◎地域連携部会

- ・「ナゾヒロイ」は企画段階から高校生に関わってもらいたかったが、実現できなかった。
- ・飯生神社の祭りの手伝いは、日給を上げて参加を呼びかけたが、集まらなかった。報酬の金額にかかわらず、誰か一人が参加すると言えば皆参加するのだと思う。
- ・本校3年生の女子生徒4名に神楽を教え、文化祭等で披露してはどうかと教育委員会に相談したが、実現には至らなかった。映像資料等があれば興味を持って参加してくれる生徒が出てくるのではないか。
- ・海浜清掃等の目に見える活動を中学校と合同で行ったことは良かった。町がB&Gとの連携に力を入れているため、今後も活用できるかもしれない。
- ・古典芸能を部活動で実施し、町文化祭や学校祭で発表させることはできないか。
- ・音楽の授業で雅楽や神楽を体験させたい。今年度中の実現に向けて連携を図る。

- 学校と地域が共に活動を展開させていくには、早い段階で年間活動計画を共有し、お互いのスケジュールを把握することが必要ではないか。
- 探究活動では、大きな課題に取り組むより小さな課題を達成して成功体験を味わってもらいたい。
- 生徒募集の観点で中高連携を行うならば、先輩方が高校で楽しそうにしている姿を見て憧れをもってもらうことが重要だと思う。合同の講演会等も良いが、同じ授業や行事（運動会等）に参加しグループで共同作業を行うなど人間的な触れ合いを増やしてもらいたい。
- CSでの取組を地域に広めるべきである。学校評議員にはその役割があると思うが、どのような情報をどこまで広めていいのか迷うのが現状である。
- 学校とCSが同じ目標をもって活動していくことが重要である。

◎学力向上部会

- 「学び」のイメージが相違しているのではないか。地域、教員同士ですり合わせられたらいいのではないか。継続が一番難しい。コーディネーターの必要性。
- 豊浦の町営塾は親が主体。子どもが楽しめる場所や教習所があれば大人になるまで町で教育が完結する。教習所は町内に2つあった。
- どれほどの人が自分事として考えているか。
- 人を集める方法を考えないと町が潰れる。
- 中学生の親に発信する方法を考える。
- CSに幼稚園、保育園の関係者も入れたらどうか。
- 学校祭での一般公開は思ったより地域の人が少なかった。
- 教育活動をまとめた動画を町内で流せないか。→まずは町民文化祭で流す
- 学校図書館支援プログラム（カーリル）無償で図書検索ができるシステム。公共図書館と連携することもできる。
- 新井紀子『AI VS. 教科書が読めない子どもたち』『シン読解力』『読解力トレーニング』